

2017年 第25回JOCジュニアオリンピック大会における出場者制限について

2016年6月18日理事会承認の改訂（※太字部分）

JOCジュニアオリンピック大会も来年で25回を迎えます。この大会で優秀な成績を収め、ジュニアの国際大会にも日本代表として出場し、その後自選難度競技の日本代表となった選手も少なくありません。一昨年から難度動作を含む国際第三套路が競技種目となり、同時にここ数年は出場者数の増加に伴い、競技日程が大変厳しくなっています。今年の大会ではA組の国際第三套路と、C組の出場者に対して、ブロックでエントリーの人数制限を設けました。来年の大会では以下のようにエントリー制限を設けることをご提案いたします。これは単に競技時間の短縮ということではなく、以下のような内容を含んでのことです。

- 1) JOCオリンピックカップである以上、出場者は一定以上の技術レベルを持つべきである。
- 2) ブロックでの人数制限が、近い将来ブロック予選の実施という形につながり、ブロックから全国大会へという形が定着することが望ましいと考える。
- 3) 参加者の多すぎる種目では競技時間も長く、2名同時の演武で、およそ2分ごとに次々と打点をしなければならぬ。このような形では、審判の負担も大きく、競技会として正確な審判を行うことが困難と考えられる。これらのことから次回大会ではABCの各組で下記のような出場制限を設ける。

<1. ブロック選抜枠>

1) A組の国際第3套路

南関東・近畿ブロックは5名、他の5ブロックは4名とする。

実施種目は来年も徒手と短器械。(以下略)

2) B組の長拳B

南関東・近畿ブロックは7名、他の5ブロックは6名とする。

3) C組

南関東・近畿ブロックは6名、他の5ブロックは5名とする。

同時にJOC大会での2名同時演武を1名ずつに変更する。(以下略)

エントリーについて

24回大会と同様、ブロックで選抜し、その選手が各県連からエントリーする。

<2. 日本連盟選手強化委員会推薦枠>※2016年度暫定規定

- 1) 2016年度の国際大会ジュニア日本代表選手に対して、日本連盟選手強化委員会が推薦することを条件に、2017年度JOCジュニアオリンピックカップ大会への出場権を与える。
- 2) 選手自身が予選会に参加することは自由とする。ただし、予選会に出場した場合は、その成績の如何に関わらず自動的に推薦枠の対象から除外される。